

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

昨年に挿し木をしたる沈丁花 枝を広げて香りを放つ  
安永 山下たか子

挿し木せし沈丁花の枝伸びゆきて白き花芽を三つ付けたり  
広崎 松原まゆみ

急逝す 友の遺影は微笑みて もの言いたげにわれを見つめる  
惣領 島田 廣子

ありがとうの言葉を残し先立ちし 主人の顔は清廉保ち  
安永 川野 光子

誕生日むすこ家族の寄せ書きに ひとりひとりの顔を浮かべぬ  
宮園 金子フム子

子や孫に囲まれ祝う誕生日生きている幸 至福の時よ  
小谷 今吉マキ子

暖かき陽射しの今日は誕生日 平成終わる私八十路に  
惣領 新井 露子

早春の庭眺むれば紅梅と青軸の間に枝垂れ梅咲く  
木山 本田 龍子

風に乗りほのかに香る水仙は土手に並んで揺れて咲いてる  
宮園 島 みつき

山の端を朱く染めつつ昇る陽に 今日の平安願いを込める  
安永 福田 圭子

天災と分かかっていても辛かった 平成最後の春になっても  
寺迫 西坂ヨシ子

梅開く社殿に参る親子連れ ただ願うのは入試合格  
赤井 増岡 伸禧

【お願い】 投稿は、一人一首でお願いします。

俳句

河野 全平 選

復興へ崩れ石垣しだれ桃

啓蟄や修羅の海越え鴨かえる

老いぬれて紅なつかしや雛あられ

春耕や山に馬酔木あしびの萌えいづる

北帰行浮島うずむ鴨の陣

ひな飾り妻はワインを一气飲み

啓蟄や紅蓮の炎あそ野焼

改元へ平成惜しむ花吹雪

黙禱に始まるうたげ梅真白

一句鑑賞  
大地震思ひ出さるる四月かな

川柳

布田川左門 選

【お題】 地震・三年目

三年目平屋ふえゆく益城町

三年も住めば仮設もみやこ哉

おめでとう新婚さんの震源地

※参考例

はにかみのプロ棋士七段三年目

【お題】 自由詠

藪つばきに惚れたメジロが離れない

ひよどりめが意地悪しては花散らす

新元号10連休を連れてくる

※参考例

暗雲かJOCの辞任劇

福原 奥村 正史

赤井 西山恵美子

小谷 今吉マキ子

赤井 青山 誠子

広崎 松原まゆみ

赤井 増岡 伸禧

惣領 阪口由美子

木山 山口サツキ

田原 辻ヶ峰子

眞淵富士子

広崎まゆみ

平田の老女

赤井すいすい

惣領正吾

馬水のまさみ

やぶにらみ

川柳のお題 「選挙・投票日」

益城の文化財 町文化財保護委員会



益城町

益城町の地形と川 その二

益城の川は水量が多く、昔は舟輸送が盛んで、各所に船着き場があったと言われます。

木山川では、小谷が最終船着き場として川尻とつながっていました。赤井川は、そうめん滝と川尻が輸送路で、小谷や木崎には旅籠はたごがあったと言われます。旅人、生活物資、農産物、木材製品、古くは年貢米などが運ばれました。また、城山銅山の銅鉱石も、そうめん滝の港から運ばれていました。

益城の川は、豊富な水で澄んでいてといわれます。沖積平野での稲作も盛んでした。川には魚類なども多く、食用にもなっていました。

木山町には酒造りやでんぷん工場もあり、赤井川沿いには水車が何軒もありました。そうめん滝の水を利用した砥川用水は農家に豊かさをもたらしました。

ところが、それらの川も洪水が起